

# 農林大学校だより

## No.77

令和8年3月4日

東北農林専門職大学  
附属農林大学校

〒996-0052 新庄市大字角沢 1366  
TEL : 0233 - 22 - 1528  
FAX : 0233 - 23 - 3119  
HP : <https://tpuaf.ac.jp/college/>

## 明日の山形の農林業を担う！

附属農林大学校 卒業式 (R8.3.4)



## 1年を振り返って 自然と向き合う大切さ

校長 今田 匡彦

早春の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。厳しかった冬の寒さもようやく和らぎ、本校の農場にも春の兆しを感じられる季節となりました。

3月は、学びの1年を締めくくる節目の時であります。

東北農林専門職大学附属農林大学校として初めての入校生である2年生たちはそれぞれの成長を胸に、新たな一步を踏み出しております。日々の講義や実習、地域との連携活動を通して培った力が、これからの農林業・農山村を支える礎となることを願っております。1年生は、先輩の教え、「師弟同行の精神」のもと、実習を中心に卒業論文計画をまとめ上げたところです。

今年度を振り返りますと、異常気象による高温、熊の出没、大雪など、農林業に携わる私たちにとって、常に自然と向き合う姿勢が重要であることを実感する年だったのではないのでしょうか。

本だよりでは、本年度の歩みと学生たちの活躍の一端をご紹介します。ご高覧頂けましたら幸いに存じます。

# 今年も頑張りました！ ～農林大生の活躍～

## 東日本及び全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会

令和8年1月14日～15日、岩手県を会場に、東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会が開催されました。本校からは、校内での発表会で選ばれた5名（プロジェクト発表の部2学年3名、意見発表の部1学年2名）が参加しました。

発表に臨んだ学生は、冬休み返上で資料のブラッシュアップや発表練習に取り組み、当日は練習した成果を遺憾なく発揮し、発表を行いました。

発表した内容や姿勢は他県の先生方からも高く評価され、審査の結果、2名（プロジェクト発表の部1名、意見発表の部1名）が全国発表会へ進出することとなりました。



全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会は、2月17日～19日に、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されました。本校から、東日本発表会で選出された2名（プロジェクト発表の部1名、意見発表の部1名）が参加しました。

全国から集まった大学校生約300人が見守る中、2名とも堂々とした発表を行い、プロジェクト発表（養成課程の部）では、野菜・花き経営学科野菜コースの青戸翔汰朗さんが「優秀賞（農林水産省経営局長賞）」を受賞しました。また、意見発表の部では、野菜・花き経営学科野菜コースの齋藤京佑さんが「特別賞（株式会社日本農業新聞賞）」を受賞しました。

## 第36回ヤンマー学生懸賞論文・作文（作文の部）

ヤンマーアグリ株式会社は、今年も次世代を担う若者に農業の未来について広く自由な観点から議論してもらうことを目的とし、「ヤンマー学生懸賞論文・作文」を募集しました。

作文の部において、全国から306編の応募がある中、果樹経営学科1学年の今野陽翔さんの作文「地域と記憶をつなぐ観光農園 農業の未来を作るきっかけづくり」が「銅賞」を受賞しました。

今野さんは、農業従事者の減少の解決には、農業に興味を持ってもらう仕組みが必要と考え、「観光農園」に注目しました。将来は、小規模でも地域に根差し訪問者との交流を大切にするとともに、収穫体験を通じ若者の関心を喚起できる「観光農園」を開園したいという目標をつづりました。

本校の学生が「銅賞」を受賞するのは4年振りとなります。さらに、野菜・花き経営学科野菜コースの木村柊二さんと畜産経営学科の江本千駿さんが「奨励賞」を受賞しました。



## 第2回みどり戦略学生チャレンジ 東北ブロック（大学・専門学校の部）

農林水産省は、農業大学校や大学生、高校生等、将来を担う若い世代の環境に配慮した取組を促すため、「みどりの食料システム戦略」に基づいた活動を実践する機会として、昨年度から「みどり戦略学生チャレンジ」を開催しました。

このチャレンジは、「みどりの食料システム戦略」に基づいた取組（調達、生産、加工・流通、消費に係る取組）の成果を、ポスターの形式で提出するもので、全国の9ブロックで地方ブロック大会が行われました。本校からは、東北ブロック大会に「みどりの食料システム戦略」に関連する卒業研究を行った学生9名が参加しました。

東北各県から多数の参加がある中、果樹経営学科の菊地海良さんが「東北農政局みどり戦略推進官賞」を、野菜・花き経営学科野菜コースの早坂俐玖さんと稲作経営学科の赤坂銀志さんが「特別賞」を受賞、他6名が「みどり戦略チャレンジ賞」を受賞しました。



## 令和7年度 森林・林業技術交流会

令和8年1月29日、あきた芸術劇場ミルハスで開催された「令和7年度森林・林業技術交流発表会 森林ふれあい・地域連携部門」で、林業経営学科2学年の河原直希さんが「南陽市秋葉山における森林火災後の二次遷移の実態」を発表し、「東北森林管理局林政記者クラブ賞」を受賞しました。河原さんは、南陽市の森林火災の現地で調査を重ね、その度に変化していく現地の様子に興味と理解を深め、卒業論文としてまとめました。



現地で植生を調査

## やまがたフラワーフェスティバル 2025 花き品評会

令和7年10月18日～19日に開催された「やまがたフラワーフェスティバル 2025 花き品評会」(主催:やまがたフラワーフェスティバル 2025 実行委員会、山形県花き生産連絡協議会)において、野菜・花き経営学科 花きコース2学年の柳橋 舞さんが栽培したベニバナが山形県花き生産連絡協議会長賞(銀賞)を受賞しました。

卒論研究で取り組んだ秋出しのベニバナの品質と珍しさが評価され、県内の花き生産者が出品した総数260点の中からの受賞となりました。



## 第6回山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」

やまがた食産業クラスター協議会主催の「山形ならではの」の加工食品の優良事例を顕彰するコンテストに、農産加工経営学科の2学年が卒論で取り組む加工品を出品しました。

審査の結果、鈴木尊さんの「発酵さくらんぼドレッシング」が調味料その他部門で優秀賞を、清野瑞季さんの「庄内柿使用のステーキソース」が審査員特別賞を受賞しました。

山形市内において受賞商品等の即売会が開催され、学生も参加してPR販売し、県内外の観光客からも好評でした。



# 学校行事あれこれ

## “農大祭”今年も盛大に開催

令和7年11月1日、本校において毎年恒例の「農大祭」を開催しました。

当日は、風雨が強くあいにくの天候でしたが、会場には早くから多くの方々が集まり、開場とともに各ブースには長蛇の列ができました。来場者は、学生たちが実習で作った自慢の農産物や加工品、各学科による模擬店の飲食物を買い求め、早々に売り切れる品物も出るほど大盛況でした。

また、校内の各教室では、2年生が取り組んでいる卒業論文プロジェクトの概要のポスター展示や、本校の活動を映したYouTubeチャンネルの上映など、学生が日頃頑張っている様子をお伝えすることができました。



## 芋煮会&実習林トレッキングを開催

令和7年10月10日に農大市場交流広場で『芋煮会』を開催しました。今年は、農大産の土垂芋30kg、関羽葱40本、山形牛11kgに実習林でとれたマイタケ、ヒラタケが大鍋でぐつぐつと煮込まれ、豪華でおいしい芋煮ができました。さらに、農大で収穫されたばかりの「つや姫」のおにぎりや幸水梨が振舞われて学生の腹を満たしました。秋晴れの空の下、みんなで作って食べた最高の『芋煮会』でした。

芋煮を食べた後、6チームに分かれて、大学校内実習林のトレッキングを行いました。林業経営学科の学生と先生が待ち受ける6つのチェックポイントで、クイズやゲームを通じ、森の木や木炭のことを学びました。オオヤマザクラを測る特設会場では、『測幹ポール』という林業の機器を使い13.8mの樹高を正確に計測できました。農業の学生たちも森林・林業にふれることができました。



仕上げに大量のネギを投入 クイズ「どんぐりの木はどれ？」

## 体育のメインイベント『体育祭』を開催

令和7年11月19日、秋の肌寒さを吹き飛ばす『体育祭』が開催されました。1、2学年の学生84名が4チームに分かれ、熱戦を繰り広げました。各学科で準備した障害物(30kgの米袋運び、りんごの早食い、丸太早切り等)をクリアする“障害物リレー”、体育館全体を使った“大綱引き”、全員の息を合わせなければいけない“大縄跳び”の3種目を実施しました。見事に頂点に輝いたのは、稲作・加工経営学科の1・2年合同チームです。仲間との絆を深く刻んだイベントになりました。

《手に汗握る大接戦の様子は『農林大 YouTube チャンネル』で配信中です》



# 大学校生活2年間を振り返って

稲作経営学科の2年間の生活の中で一番思い出に残っている行事は体育祭です。種目は障害物競走、綱引き、大縄跳びの順の3つで、4チームでの対抗でしたが、皆が一致団結したおかげでなんとまさかの優勝することができました。

体育祭を通して稲作経営学科の皆と仲が更に深まったと思いました。

(稲作経営学科 土門 結音)



農林大学校で過ごした2年間は、圃場の管理や卒業論文など、高校生までとは1ランク上の責任を問われる分、苦労も少なくない2年間でした。けれども寮生活という皆との距離感の近い環境は思い返すととても賑わっていて、好きだった一人の時間も、その賑わいがあったからこそだったと思います。苦しい思い出も嬉しい思い出もありましたが、沢山の思い出ができるほど充実した学校生活を送れたことを嬉しく思います。

(果樹経営学科 山口 晴臣)



農大で過ごした2年間は過酷であり充実した日々でした。1年生の頃は農大の何たるかを叩き込まれ右も左もわからぬまま実習で振り回される日々。2年生になると卒業論文が始まり、切れ味だらけの質問や穴だらけの試験など様々なこともありました。しかし、充実した日々なことには変わりなく、技術や知識を身に着けられました。

ありがとう農大  
フォーエバー農大

(野菜・花き経営学科 野菜コース 早坂 俐玖)



私たち花きコースでは、男子1名女子2名と少人数で、何事にも全力で頑張ってきました。実習では、1年時に花きの基本について、圃場管理を通して1年間の流れを学び、2年時は、それぞれの卒業論文に取り組みながら、1年の実習の手伝いもしてきました。大変なことも多々ありましたが、花き全員の協力があったからこそ2年間楽しく大学校生活ができたのだと思います。

卒業後は、それぞれ進路は違いますが、学んだことや経験を活かし、頑張っていきたいです。

(野菜・花き経営学科 花きコース 佐藤 悠万)



農林大学校で過ごした2年間はとても充実していて楽しかったです。卒業論文や資格取得、牛舎の当番管理、市場、県外研修など様々なことをたくさん経験できました。様々なことを経験していく中で、命とともに仕事をしていく責任、命の重さや尊さを学ぶことができました。農大で得た知識や技術、農大でできた楽しかった思い出を糧にこれからも頑張っていきたいです。

(畜産経営学科 深瀬 和華)



私は卒業論文で庄内柿を使用した柿のステーキソースを開発しました。柿のステーキソースを販売し、お客様からは「柿の味がして美味しい」、「お肉にかけて食べるのが楽しみ」という好評を頂き、柿のステーキソースを製造して良かったと思いました。また、山形うまいものファインフードコンテストで特別賞を受賞する事ができました。大変な事もありましたがお互いを支えながら楽しい学生生活を送る事が出来ました。

(農産加工経営学科 清野 瑞季)



農林大学校での生活は私にとってとても濃いものとなりました。2年間はとても短く、林業の知識や技術が凝縮されたものとなりました。2年生では、卒論作成と就職活動というダブルで忙しく、早朝からの下刈りなど大変でしたが、仲間と充実した学校生活を送れたと思います。2年間、1日も休まずに過ごせたこの体力で、4月から地元の森林組合で頑張っていきたいと思っています。

(林業経営学科 宗像 大地)



後輩から先輩へ...  
お礼の言葉

2年生の皆さん、  
2年間お疲れ様でした！  
また、1年生の僕たちに優しく丁寧に  
ご指導していただきありがとうございます。農林大学校で学んだ知識や技術は社会に出ても必要だと感じる  
ので、学んだことを忘れずに生活してください。

農林大学校は2年間寮生活なので、とても楽しかったはず。ここで出来た「友」は、かけがえのない宝物になります。先輩方は、学科関係なく仲が良く、素晴らしいと感じていました。私達もそのような学年にしていきたいと思います。改めて、2年生の皆さん本当にありがとうございました。

学生会長(果樹経営学科1年) 古澤 潤也

農林大関係ホームページ・YouTubeを御覧ください！



農林大学校 HP



農林大 YouTube



同窓会 HP